

平成28年 JA越後おぢやへ 問い合わせの多かった野菜 総括



トマト

・尻腐れ

トマトの尻腐れはカルシウム欠乏で起こります。カルシウム欠乏は高温環境下や窒素などの肥料が多すぎると発生しやすい。平成28年のような高温乾燥が続くと発生しやすくなります。適切な施肥を心がけるとともに、寒冷紗や敷きわらなどで高温への対策をおこなうことやカルシウムの葉面散布も効果があります。

長ネギ

・ネギアザミウマ

ネギアザミウマは高温乾燥条件だとよく繁殖するので、昨年のような暑さの厳しい年に多発することがあります。



▲トマトの尻腐れ

ります。

被害が多い場合は葉全体にかすり状の食害の痕が見られます。防除のポイント、密度の増加する初夏に重点的に殺虫剤を散布することです。

・ネギハモグリバエ

よく被害の問い合わせを頂くネギハモグリバエは、幼虫が葉の内側から食害し、線状や不整形の食害の痕が見られます。発生が多い場合には葉の全体が白化して枯死します。幼虫は土の中で蛹になって越冬するため、連作を避けて、発生する前から防除を行いましょう。

・軟腐病

軟腐病は土壌湿度が高い場合や窒素過多の畑で発生しやすくなります。昨年の



▲ネギアザミウマと食害

ような秋の長雨などで土壌湿度が高くなると発生が多くなります。なるべく水はけの良い畑を選んで、こまめな防除を心がけ、万が一発病した場合には、発病した株が伝染源になるので早めに畑の外に持ち出して処分しましょう。

秋野菜全般

平成28年は長雨により病気の発生が多い年でした。長雨の年だと農薬の散布のタイミングが難しいが、晴れ間を見て病気の発生前から防除を行っていくことが重要になります。

また、作付け前に畝を作る際に高畝にしたり排水対策を行って水はけを良くしていくことが重要です。

平成28年は、小雪で雪解けが早く動き出しは早かったが、夏場の高温乾燥、秋の長雨と野菜の栽培には難しい年でした。今年も健康に留意し、菜園ライフを満喫しましょう。

「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

*設置店舗：総合営農経済センター
片貝営農センター
千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!
探したい項目を指でタッチ!!